

お天気解説 アキラのズバッと

高潮は津波のように「江戸川区史 第三巻」より

令和8年6月19日
江戸川区気象防災アドバイザー 藤井 聡

新しい防災気象情報が始まって3週間ほど経ちました。前回アキズバは、高潮に関する情報について紹介しました。

さて、今回は1976年に編纂された「江戸川区史」第三巻の災害編から1917年10月1日に台風によって発生した高潮に襲われた時の葛西村の様子を紹介します。

「・・・なる電線は切れ、屋根は飛び、大樹は倒れ、家は動き、雨は滝の如く降り、電灯は消えて暗黒となり、

実に凄愴を極めた。家毎に神仏に無事を熱禱するのみの外はなかつた（原文のまま）」とあり、夜、非常に激しい暴風雨が村を襲っていたことがわかります。

「一日午前一時頃『津波々々…』と云ふ声、耳を劈きて聞え、見る間に百雷の轟くような大音響と共に、山なす狂瀾怒濤は早や殺到し、家も田も森も瞬く間に濁浪に吞まれ去った。親が子を子が親を呼ぶ声、家の中、浪の上から高く低く、遠く近く、悲鳴叫喚は閤を破って聞えた（原文のまま）」。4mもの波に翻弄される様子がわかります。気を付けたいのが、台風による高潮がまるで地震津波のように突然襲ってきたことです。そして、高潮による浸水域が図のように小松川や一之江など区内陸部に及んだことです。この高潮は、大潮の日、しかも満潮時に重なりました。当時を経験した人には図のタイトルのように「大津波」なのです。このような大規模な高潮災害は五千人が死亡した「伊勢湾台風」（1959年）が最後で、数十年～百年に一度ぐらいいかもかもしれません。だからこそ、当時の高潮災害の記憶として、高潮＝津波ということが忘れられているように思うのです。

第2図 大津波による浸水域

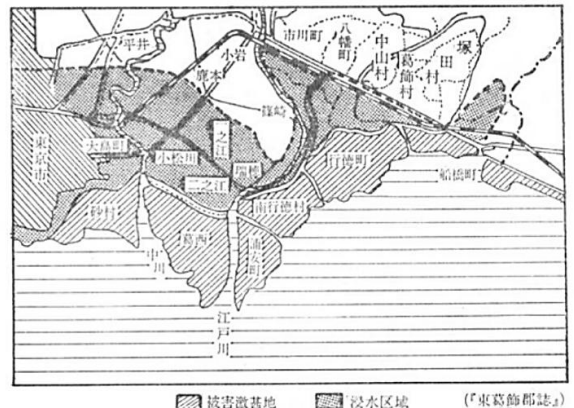


図 高潮に襲われ浸水した地域（江戸川区史より）

2026年06月19日11時 気象庁 発表			
日付	今日 19日(金)	明日 20日(土)	明後日 21日(日)
東京地方	晴後曇 	曇後雨 	曇時々雨
降水確率(%)	-/-/20/30	30/30/50/70	70
信頼度	-	-	-
東京 気温 (°C)	最高	30	25 (22~29)
	最低	-	21

東京地方の週間天気予報

(気象庁HPから抜粋)

この土日は雨が降りやすい天気になりそうです。来週は梅雨空が続きます。

クリックすると気象庁による新しい情報が見られます。